

2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (東北)		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・秋物が本格的に動く時期となっており、顧客を中心に動きがある。ただし、この売上を維持するためには、新規客を確保することが課題である。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	単価の動き	・9月は季節の変わり目であり、体調を崩す人も多い。そのため、健康維持のための高額商材の売行きが好調であり、売上の前年比も良くなっている。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・例年よりも気温が低く推移しており、秋物に対する注目が高まっている。また、実際に購入に至るケースも増えてきている。
		百貨店（総務担当）	単価の動き	・気温は高かったものの、秋物が動き始めており客単価が上がっている。さらに、まとめ買いも発生しており、少し景気が回復しているように見受けられる。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・天候が落ち着いていることもあり、今月も秋物を中心に婦人服、紳士服の好調が続いている。特に紳士服は、インポートブランドやデザイナーズブランドの動きが良い。一時期売上が低迷していた高額商材も、宝飾品、美術品を中心に売上が伸びてきている。一方、催事場の物産展は引き続き売上が厳しい傾向が続いている。
		百貨店（買付担当）	お客様の様子	・衣料品を中心に秋物の動きが良い。気温要因もあるが、定価品の動きが明らかに前年と違っている。ただし、食品は厳しいままであり、全体的な景気が上向きとまでは言い切れない。
		スーパー（店長）	単価の動き	・買上率の増加により、客単価が104%と上昇傾向にある。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・秋の到来が早く、秋物の動きが例年以上に活発になっている。
		衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・お盆を境に気温が低下し、秋物の立ち上がりが例年よりも早まっている。また、プライダルなどの目的買い需要が例年どおりに推移している。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新型車イベントの効果により、新車販売数が増加している。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・9月はほとんどの販売会社が半期決算月となり、かなりの動きが出るのが通常であるが、全体的な活気には欠けているように見受けられる。
		その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕（営業担当）	販売量の動き	・売上が前年を上回っているが、その原因は不明である。たまたま業績が良い年回りの可能性もあるものの、顧客の購買意欲が高まりつつあるように見受けられる。
		高級レストラン（支配人）	来客数の動き	・レストラン全体の来客数が、前年同月と比較して上昇している。客単価は低いものの、食に対する消費意欲は高まっているように見受けられる。
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	販売量の動き	・来客数、受注量、受注額の好調が続いている。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・物販店、飲食店など業種にかかわらず客単価に大きな格差がある。ものが売れないわけではないが、客の購買行動にはかなりの厳しさがみられており、単価の吟味は価格の高低にかかわらず厳しい。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・5月からずっと好天が続いており、前年と比較して来客数は105%と伸びている。しかし、客単価、買上客数は横ばいで推移しており、全体的な動きがあまりない状態が続いている。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・北朝鮮のミサイル問題などの世界情勢不安が地方にも波及しつつあるものの、景気自体は横ばいで推移している。	
	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・売上は3か月前と比較して横ばいであり、今月も107%前後で推移している。来客数も8～9月共に減少することなく推移している。	
	一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・今月は祝日が多く週末の動きは良かったものの、平日は静かで人も物も動いていない。良い時と悪い時の差が激しく、全く安定しない。	
	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・6月に来客数が落ち込んで以来、回復しないまま9月まで横ばいで推移している。単価の高い顧客の来店頻度が落ちてきており、客が節約している様子が見える。また、復興需要が落ち着き、地元の景気は冷めてきている。	

一般小売店〔カメラ〕(店長)	販売量の動き	・全体的に販売量は横ばいで推移している。内容は低額商材の動きが鈍いものの、高額商材の販売が好調なことで、売上を確保している状況である。
百貨店(営業担当)	お客様の様子	・3か月前と比較しても、消費動向に大きな変化は見受けられない。衣料品は高額商材の動きが鈍く、ファストファッション的なリーズナブル商材に偏っている。ただし、食品の動きは安定している。
百貨店(売場担当)	来客数の動き	・根本的に大きな変化要因はない。新規客やフリー客が増加することもなく、顧客の来店頻度や客単価の上下により売上が左右されている。そのため、顧客動員をかけた期間は売上が集中するものの、それ以外の期間の売上は減少してしまう。
百貨店(経営者)	販売量の動き	・富裕層の消費動向が、高額商材を中心に比較的活発になっている。中間層は秋物衣料品の出だしが好調に推移しているものの、雑貨については夏場の好調から一転して苦戦している。
スーパー(経営者)	来客数の動き	・競合店出店などの影響により既存店の来客数は減少している。競合店の影響のない店舗においても、天候が安定しているにもかかわらず微減しており、客単価も上がっていない。
スーパー(経営者)	単価の動き	・客の消費傾向は前月と変わらず、1品単価は前年を下回っている。また、買上点数は若干増加しているものの、来客数は前年並みのため、売上也横ばいで推移している。
スーパー(店長)	来客数の動き	・天候の悪い日が多く、来客数の減少に影響を与えている。
スーパー(総務担当)	単価の動き	・来客数は前年を若干下回っているものの、客単価はそれを補っても余るくらい状況となっている。
スーパー(営業担当)	来客数の動き	・来客数が98.7%と前年を下回っているものの、1品単価が前年を上回ったため、何とか売上は前年を維持している。消費を抑えるという客の節約志向がみて取れる。
コンビニ(経営者)	単価の動き	・買上点数は増加しているものの、客単価が低下しており、天候不順で飲料系の売上が減少した8月から改善しないまま、今月も横ばいで推移している。
コンビニ(経営者)	来客数の動き	・春に人口がかなり減った影響で、売上が悪化したまま、横ばいで推移している。
コンビニ(経営者)	来客数の動き	・来客数、客単価共に前年を上回っている。
コンビニ(エリア担当)	来客数の動き	・来客数に変化がない。行楽シーズンではあるものの、週末の雨などマイナス要因が多い。
コンビニ(店長)	来客数の動き	・例年に比べて残暑がなく気温も低いいため、夏前と比較して来客数、売上共にあまり変化がない。
衣料品専門店(経営者)	お客様の様子	・秋らしく気温が下がったこともあり、顧客の秋物の購入は順調であるものの、一般客の購買意欲はまだ低い。
衣料品専門店(経営者)	単価の動き	・暑い日が続いているため秋冬物の動きが鈍く、価格競争が始まっている。
衣料品専門店(店長)	来客数の動き	・9月中旬に一時的に気温が上昇したことで、秋物目的の来客数が大きく減少している。
衣料品専門店(総務担当)	販売量の動き	・来客数は前年並みであるものの、買上点数が下回っているため、全体の売上は減少している。
家電量販店(店長)	来客数の動き	・来客数が伸び悩んでいる状態が続いている。
家電量販店(店長)	来客数の動き	・7月の猛暑でエアコンなどが前倒して購入された影響により、来客数は前年比99%と若干前年には届かなかったものの、売上は前年並みとなっている。
家電量販店(従業員)	来客数の動き	・来客数の動きにほとんど伸びがみられていない。
乗用車販売店(従業員)	販売量の動き	・新型車が発表されたものの、成約に結び付く商談があまりない。
乗用車販売店(従業員)	来客数の動き	・休日の来客数の動きに変化がない状態が続いている。
住関連専門店(経営者)	販売量の動き	・受注生産のため、物件によって数量が増減するが、全体的にはあまり変化はない。
住関連専門店(経営者)	販売量の動き	・小物商材で売上を維持している状態が続いている。取引メーカーや問屋も売上に苦戦しているとのことであり、好景気を実感するまでには至っていない。

その他専門店 〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・6月から施行された酒税法の一部改正に伴う売上への影響は落ち着いてきており、店頭での売上は部分的に戻ってきているものの、全体的には落ち込んだままである。堅調に推移している純米吟醸酒や純米酒も、徐々に伸びが鈍化している。
その他専門店 〔靴〕（従業員）	販売量の動き	・客は、必要な物や安い物は購入するものの、それ以外の商品の購入には慎重である。
その他専門店 〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	販売量の動き	・販売量が前年並みに推移しており、仕入価格も安定している。ただし、冬に向けて仕入価格は上昇傾向にある。
一般レストラン （経営者）	販売量の動き	・販売量などに特に変化はなく、横ばいで推移している。
一般レストラン （経営者）	来客数の動き	・この低迷が外食産業全体のものなのかは不明であるが、特にイタリアンレストランで、客単価及び来客数が芳しくない状態が続いている。
一般レストラン （経営者）	販売量の動き	・今月は、特段良くもなく悪くもなく、まずまずの結果となっている。
観光型ホテル （経営者）	来客数の動き	・大きなイベントによる関係者の宿泊で、来客数は3か月前より上回っているものの、一般客の動きには特に変化がない。
観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・来客数、売上共に大きな変化はなく、例年並みで推移している。
観光型旅館（スタッフ）	単価の動き	・夏休み期間と同様に単価の安いプランの申込が多い。また、ミドルクラスの価格帯の販売量が前年に比べて落ち込んでいる。
都市型ホテル （スタッフ）	販売量の動き	・9月はねんりんピックがあり、宿泊と一般宴会あわせて1千万円程度のプラスとなっている。ただし、6月もインバウンド効果やブライダル需要が押し上げており、3か月前との比較では変わらない状況となっている。
旅行代理店（店長）	販売量の動き	・国内旅行、特に団体旅行の動きが鈍い。海外旅行についても、北朝鮮問題により予約の鈍化並びにキャンセルが発生している。
旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・個人旅行では、天候不順が続いた夏からの巻き返しを期待していたが、客の様子見が続いており、回復するまでには至っていない。そのため、団体旅行は好調であるものの、全体としては変わっていない状況である。
通信会社（営業担当）	お客様の様子	・ここ1か月の景気は上向いている。公共工事も頻繁に行われており、前月よりも飲食店がにぎわっているように見受けられる。ただし、通信業界は低迷している。
通信会社（営業担当）	お客様の様子	・顧客の設備投資意欲に変化はみられない。
通信会社（営業担当）	お客様の様子	・客はコスト削減の要求ばかりであり、新サービスが売れていない。
観光名所（職員）	お客様の様子	・来客数は増加しているものの、前年より気温が低く飲料系の動きが鈍い。
観光名所（職員）	お客様の様子	・出控え、買い控えがみられる。
遊園地（経営者）	来客数の動き	・3連休に台風が通過した影響はあったものの、前月と比較して穏やかな天候で推移したこともあり、来客数はわずかながら前年を上回っている。
競艇場（職員）	来客数の動き	・期待していた大きなイベントの波及効果が薄く、当日の来客数は通常より多かったものの、リピーターになるまでには至らなかったことから、売上増加につながっていない。
美容室（経営者）	来客数の動き	・来客数の前年比は95～99%の状態が続いている。景気は良くないが、実数としては横ばいで推移している。
美容室（経営者）	来客数の動き	・同業者が増えており、客は安い店に流れてしまう。
住宅販売会社 （経営者）	お客様の様子	・遊休不動産の販売依頼が増えており、その仲介によって新築住宅の受注にもつながっている。
その他住宅〔リフォーム〕 （従業員）	来客数の動き	・リフォームの問い合わせが増えており、受付件数は前年比120.5%となっている。
一般小売店〔寝具〕 （経営者）	販売量の動き	・長雨が続いて早めに秋がきたため、夏物が大幅に売れ残っている。

	スーパー（店長）	販売量の動き	・売上の前年比は、6月の96.7%に対して現時点では95.7%で推移しており、緩やかに下降している。そのため、景気はやや下向きである。	
	スーパー（営業担当）	来客数の動き	・競合店の出店が相次いでおり、全体的に来客数が減少している。チラシ、曜日別ポイントセールなど販促策を強化することで、買上点数、買上単価は前期を上回っているものの、来客数減少による売上のマイナス分をカバーできていない。営業努力により粗利益は前期並みに推移しているが、一方、人件費、販促費などの販売管理費が上昇しており、経営的に厳しくなっている。	
	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・天候不順により、飲料、アイスクリームなどの販売量が不振である。利益率も低く、オーナー収益が10%以上悪化している。	
	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・9月は全体的に気温の低下や悪天候となり、前年比の数値は厳しい状況である。また、購買意欲の低下よりも、購入単価の低下、買上点数の少なさが目立っている。	
	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・どの業界においても設備投資意欲が弱く、銀行借入が伸びていない状況である。	
	住関連専門店（経営者）	来客数の動き	・商店街を歩く人の姿が少なくなっており、それに伴い、店舗への来客数も減少している。	
	その他専門店 [ガソリンスタンド]（営業担当）	販売量の動き	・販売量の減少に歯止めがかからず、加えて天候不順により、行楽客の来店も少ない状況である。	
	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・だんだんと気温が下がってきていることで、客足が遠のいている。来月には選挙を控えているため、なおさら景気は良くならない。	
	一般レストラン（経営者）	それ以外	・日によって来客数の差が激しい。また、仕入価格も上昇しており、カニの剥き身などは2倍近い価格となっている。全体的に魚の価格が高騰しており、かなりのダメージとなっている。	
	観光型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・8月は全国的なスポーツ大会などのイベントがあったため計画どおりの売上が確保できたが、9月の宿泊数は前年割れとなっている。	
	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・一般宴会部門は前年並み、宿泊部門、レストラン部門は前年に届いていない状況である。駅前のデパートが8月末で閉店した影響もあるのか、来客数の減少が響いている。	
	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・数か月前より予約状況が低迷していたが、フリー客の利用により大きな落ち込みになっていなかった。しかし、今月はフリー客の動きも鈍く、全体的に悪化傾向にある。改善するような動きもみられず、厳しい状況である。	
	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・夏が過ぎて、来客数が減少している。	
	旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・1年前から個人旅行の動きが悪くなってきているが、現在はその1年前よりも更に悪くなっている。団体旅行は堅調であるが、個人旅行の低迷により業界全体としてはあまり良くない状態となっている。	
	通信会社（営業担当）	お客様の様子	・4Kテレビの普及が停滞しているなか、携帯端末などのモバイルで視聴できる無料のインターネットテレビが浸透し始めており、有料テレビへの加入は微減状態である。	
	×	一般小売店[書籍]（経営者）	販売量の動き	・不透明な国際、国内情勢や異常気象の影響による生活への不安から、買い控えが一層進んでいる。
	×	スーパー（経営者）	お客様の様子	・可処分所得が伸びないなか、節約志向が更に顕在化している。
	×	コンビニ（店長）	単価の動き	・夏の天候不順を引きずっていることもあるが、それにしても全体的に数字が悪い。原因は不明であるが、特に客単価が下がっている。
	×	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・当店は単価が多少高めであり、連休があると家族層は昼間の出費がかさむのか、夜の外食を控えられてしまう。そのため、連休が2回あった今月は来客数が激減している。
企業 動向 関連  (東北)	-	-	-	
	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・7～9月にかけて、地元ではスポーツ関係に始まり文化関係、サブカルチャー関係、特産品関係の全国的な大会がめじろ押しであり、その効果で地元名産品の飲食、お土産品の販売が好調である。	

電気機械器具製造業（企画担当）	受注価格や販売価格の動き	・半導体製品の大口価格が徐々に上昇している。
輸送用機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・設備改造などの受注が活発にきている。
金融業（広報担当）	取引先の様子	・スーパー、コンビニ、ドラッグストア、家電専門店、ホームセンターの各小売業態において、売上が前年同月を上回っている。
公認会計士	取引先の様子	・決算を迎えている建設関係は、前年より利益が増加している。その他サービス、小売業は売上、利益共に前年より減少している。建設業が好調のため景気はやや上向きである。
その他非製造業 〔飲食品卸売業〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・9月に入ってから天候も回復しており、全国的な大会や音楽イベントの集客に助けられて、景気が上向いている。
食食品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・売上は前年並みであるが、販売ルートにより明暗が分かっている。駅構内の店舗はイベントが多くあったため2けた近く伸びているが、量販ルートは苦戦が続いている。
出版・印刷・同関連産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・売上が悪化していたのが回復してきたものの、良くなったとまではいえない。
金属製品製造業（経営者）	取引先の様子	・新しい案件が出てきているが、既存製品に落ち込みがみられている。
一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・国内受注は堅調に推移しているものの、海外受注が減少しており、全体としては横ばいか若干のマイナスとなっている。
電気機械器具製造業（営業担当）	取引先の様子	・製造関連の中小企業では相変わらず受注量が多く、忙しい様子である。
建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・技術者の人手不足はあるものの、受注量は順調に推移している。
建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・公共工事の発注時期の平準化効果もあってか、今月時点では3か月前と同水準で推移している。
建設業（企画担当）	受注価格や販売価格の動き	・手持ち工事の繁忙度の高い状態が続いている。
通信業（営業担当）	取引先の様子	・取引先の反応は悪くないが、価格低廉化の傾向は変わらず、薄利多売状況が続いている。
通信業（営業担当）	取引先の様子	・設備投資よりも経費削減に重きが置かれている。
金融業（営業担当）	取引先の様子	・企業は人材確保に苦労している。また、資金需要も強くはない。
広告代理店（経営者）	受注量や販売量の動き	・インバウンド関連の仕事はあるものの、それに伴うパンフレットの数量が減少している。
コピーサービス業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・機械関係の販売台数は若干減少気味であるが、売上は横ばいのため、大きな変化はない。
その他非製造業 〔飲食品卸売業〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・今年に入ってから、売上が前年を4～5%下回る状態が続いている。取引先である販売店が、毎月1～2店舗のペースで廃業しているため、その影響が徐々に表れている。
その他企業〔企画業〕（経営者）	取引先の様子	・官公庁における印刷関係の需要に伸びがない。取引先の印刷会社からは、ネットの即時性への依存が高く、印刷物での広報、PRは従来踏襲型でその部数も減少している、と聞いている。
農林水産業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・農協より晩成種のももの精算書が届いたが、前年よりも販売単価が2割ほど低くなっている。
農林水産業（従業員）	それ以外	・7月の長雨と低温の影響により、米などの作物の収穫量が減少している。
食食品製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・酒税法の改正に対応するため、商品の値上げや販促費などの値締めを行った結果、卸会社への納品価格が上昇している。それに伴い、販売不振や商品カットにより、販売量が前年と比較して20%の減少となっている。
出版・印刷・同関連産業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・過去3か月の売上は、前年同月比約10%の落ち込みとなっている。紙の広告からインターネット広告へのシフトが加速している。
窯業・土石製品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・地域により状況に差はあるが、震災復興需要はピークを過ぎており、終息に向かいつつある。また、これまで民間需要が堅調だった地区においても減少傾向がみられている。

	輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・物量は安定しているものの、燃油価格が上昇傾向にあり、経費が増加している。
	広告業協会（役員）	それ以外	・広告業界は近年にない厳しい数字となっている。また、テレビ各社のイベントがあったものの、天候不順もあり盛り上がりせずに終了している。
	経営コンサルタント	取引先の様子	・三陸一帯のイカやサンマの不漁は想定を上回っており、バリューチェーンの各段階において打撃を与えている。
	x	*	*
雇用 関連  (東北)		-	-
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・人手不足を背景に、求人数の増加傾向は継続している。サービス業、製造業、その他営業職など、運営していく点でコアとなる人材の確保に苦戦をしており、人材サービスの活用などお金を掛けて採用に動くケースが増加している。
	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・今年4月以降、新規求職者数の前年同月比は微増傾向にある。なかでも45歳以上の求職者の増加幅が大きく、45歳未満の求職者は減少で推移している。また、在職求職者割合も大きな変化もなく推移している。
	人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・地元の外食産業、アミューズメント施設において、高校生対象の採用活動が始まっているが、関東からの求人にも押されている。例年と比較しても地元企業の採用活動はかなり難航している。
	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・求職者と求人のミスマッチが多い状態が続いている。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・周辺企業の様子からも、景気が上向きような状況が見受けられない。
	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・求人募集は多いものの、人手不足に伴うものであり、賃金などの募集条件を向上させるような動きはみられていない。
	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・求職者の減少傾向は続いているが、在職中の求職者数が前年と変わらないことから、安定した状況が続いている。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数の前年比は微増となっている。運輸や飲食サービスにおいては、小規模な新規営業所の開設や新規出店に伴う求人申込はあるものの、大口求人などの目立った動きはない。一方、求職者は2%程度減少している。
	学校就職担当者	求人数の動き	・前年と比較しても求人獲得数に大きな変化はない。
	人材派遣会社（社員）	それ以外	・大型受託事業の収益状況に改善がみられず、粗利で数百万円の欠損となっている。9月末の入札に漏れてこの受託事業は終了するため、決算には大きく影響しないものの、想定外の売上減少要因となっている。
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・採用難易度が高い状態が続いていることにより、中小企業の採用意欲を抑制している。また、新卒採用も前年を更に上回る内定率であり、秋採用においてもまとまった数の希望者を集められないでいる。
	アウトソーシング企業（社員）	それ以外	・受注量が減少している。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人に目立った動きはなく、求人難により相変わらず諦めムードが漂っている。
	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・老人福祉介護事業所や時計工場、地元大手デパートにおいて、人員整理が行われている。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・まとまった求人もなく、水産関係においてもサンマの水揚げが全くされていない状態のため、求人数はかなり減少している。
x	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・例年9月は派遣社員の契約更新の節目であり、流動時期といわれているが、過去にないほど求職者の動きが鈍い。